

アテルイ通信

第 75 号

発行日 2025年3月28日

発行 アテルイを顕彰する会

達谷窟の悪路王、その伝説と展開

～ 悪路王とはアテルイなのか (2) ～

朝 倉 授

はじめに

悪路王の名は、鎌倉幕府が編纂した『吾妻鏡』文治五年(1189年)九月二十八日条のなかに初めて見える。坂上田村麻呂が征夷に活躍した平安時代初期(794年～)のこととして、その伝説のひとつが達谷窟(現岩手県平泉町)で採録され、初めて史書に記載されたのである。

ただし、『吾妻鏡』は鎌倉幕府初代将軍の源頼朝から六代将軍宗尊親王までの事歴(1180～1266年)を編年で綴っており、その成立は1300年頃とされている。限られた人々であれ、悪路王の名が一定の地域外の人々にも知られるにはさらに約100年の時を待たなければならなかったのである。それまでは平安時代の正史(『日本後紀』～『日本三代実録』)はもとより、他の様々な文献にも悪路王の名が出てくることはなかった。

悪路王の名はそれから御伽草子をはじめとする文芸作品や歴史書などにも登場してくるようになり、

＜達谷窟の悪路王伝説＞は変容を重ねて展開されていく。小稿では、各地の悪路王の伝承等は別(次稿)にして、主には文献からその過程と拡がりを整理し、悪路王伝説に関わる変遷の歴史をおおまかながら把握していきたい。



アテルイ通信 第75号 / 発行 アテルイを顕彰する会

発行所 〒023-0807 岩手県奥州市水沢新小路 21-1 ヒグチビル 1F 安彦事務所内

E-mail : aterui@aterui8.jp ホームページ <http://aterui8.jp/>